平成15年度福井県経済社会活性化戦略会議第10回会議概要

日 時	平成16年3月22日(月)	16:00~19:00
会 場	県庁7階 特別会議室	
出席者	西川 一誠	福井県知事
	上野 清治	小浜海産物(株)代表取締役社長
	川田 達男	セーレン(株)代表取締役社長
	竹内 幸雄	農業経営者
	前田 征利	前田工織(株)代表取締役社長
	山下 利恵子	日本労働組合総連合会福井県連合会女性委員会委員長
	山本 雅俊	福井県副知事
	吉岡 隆治	第一織物(株)代表取締役社長
	吉野 浩行	本田技研工業(株)取締役相談役

会議内容

【開会】

【知事あいさつ】

西川知事： 昨年12月7日には、5つの分野にわたる独創的な発想による政策をご提言いただきました。これらの提言を速やかに実行することが、本県の経済社会の活性化に向け、何よりも重要であると考え、直ちに提言を具体化するための施策について検討を開始し、昨年12月26日に「挑戦(チャレンジ)ふくい 福井県経済社会活性化プラン」を取りまとめました。プランには、本県の経済社会の活性化の主役である「民」の活力を高め、県内産業や地域資源の潜在力を十分に引き出すため、県が具体的に取り組む施策を数多く盛り込みました。

さらに、平成16年度当初予算において、産学官共同研究の推進や大胆な創業支援制度、地域ブランドを生み出すための県民運動の展開などプランの的確かつ迅速な実現に向け事業を積極的に予算化しました。

その結果、プランの実現に向けた予算の総額は約67億円、補助事業者の負担額も含めた総事業費では約110億円となり、厳しい財政状況の中、大胆な予算配分を行いました。

本日は、

- ・プランの概要と当初予算における対応状況、
- ・提言に関連する各種のプラン、計画等
- ・9月補正予算で事業化した(財)福井県産業支援センター、工業技術センターにおける「産業支援機関への目標管理手法導入事業」の実施状況

についてご報告し、それに対するご意見、ご提言をいただきたいと考えています。

プランは取りまとめましたが、これで終わりではなく、本会議からいただくご意見やご提言は積極的に具体化を図っていきたいと考えています。

本年度の戦略会議はこれで最終となるが、来年度も戦略会議を設置し、「挑戦(チャレンジ)ふくい」の進捗状況を審議していただくとともに、県の産業政策全般について、民間の視点から幅広い意見をいただきたいと考えている。

新年度の人選については、新年度、速やかに行いたいと考えています。皆様の中から再度委員をお願いする場合もあると思うが、その際にはよろしくお願ひします。

昨年の7月から、委員の皆様には会議にご出席いただき、積極的に議論していただき心からお礼を申し上げます。

【議題】

事務局： 議題1「戦略会議提言の対応状況」について資料1～資料11に基づき説明
議題2「『産業支援機関への目標管理手法導入事業』の実施状況」について、
資料12～資料13に基づき説明

委員： 事業評価の取組みに期待しています。事業評価を実践することで県も変わるのではないかと思います。

委員： 将来的に中国が最終消費地として伸びていくことは間違いないと思いますが、現状では中国における最終消費額はまだまだ多くありません。また、中国で買入れられる物は欧米で決められているケースもまだ多く、東アジアでのマーケット戦略においてはまだまだ欧米も重要だと思ひます。

委員： 「独創福井」の企画が小粒な気がしひます。県内に向けての福井ブランドを浸透させていこうという趣旨は充分理解できるのですが、県外に向けて福井ブランドをPRしていくダイナミズムというか、西川県政になって、福井ブランドのPRにはこれをしていこうという決定力のようなものがないと思ひます。例えば、国際コメ年というのは非常にタイムリーなので、コシヒカリの発祥地ということ福井ブランドと連動してダイナミックにPRしてはどうかと思ひます。健康・長寿日本一ということ全国ブランドのひとつとすることに成功すれば、自然発生的に交流人口や観光などにつながると思ひます。

委員： いろいろアイデアはあると思ひますが、まずは県民が自分達のブランドを売ろうという気持ちにならなければならないということで、次に県外に対するアピールをやっていこうと思ひます。

西川知事： ブランドや観光が弱いと思ひるので、どのような切り口で、また効果的な方法で県内のパワーを高めていくか検討していく必要があると思ひていひます。

委員： ブランド戦略が弱いと思ひます。例えば、コシヒカリの発祥地のPRについても何を目標にして行こうかが明確にはなっていない。事前に認知度を調査しておいて、PR後の認知度目標を設定して達成できれば、福井ブランドがアップしたのと同じ効果があると思ひます。コシヒカリのイベントではそれぐらいのことを盛り込んだ方がよいと思ひます。

事務局： 各委員からのご意見を踏まえ、知恵を絞り、取り入れていきたいと思ひます。

委員： 11月に知事が講演された内容を冊子で読ませていただきましたが、福井県の県政が信頼性を持ち、民の感覚が入ってきて、スピード感がかなり感じられると思ひました。その内容が予算にも反映してきたなという感じがしてひます。ただし、全体的的な印象としてはあまねくという感じがあります。

私の会社では12年前にTQMを導入して、それなりの成果を上げたと思っています。しかし、目標の達成度合いが勤務評定になりますから、10年以上続けていると職員が目標を高く設定せずに、達成可能なものしか設定しなくなります。いかに目標を高く設定したかという、目標の高さを評価することも、同じウェイトで行う必要があると思います。

西川知事： 県議会では、長期的にみて福井県がどうなるかというビジョンが必要ではないかという意見もあったのですが、その点についてはどう思われますか。

議長： フランスの行政官というのは哲学を勉強するらしいです。住民にとって何が必要かとを判断するには、人間としてどうあるべきかという勉強が必要だということらしいです。

委員： 構造改革や三位一体の改革などと言われていますが、国と地方の関係が変わるようでは変わっていきません。行政的な部分では国に足を引っ張られて、やるべきことができない。国と地方のあり方が、どのように、いつの時点で決まるのかというのが重要になってくると思います。

委員： 予算や人事などでは、足かせというか伝統に基づいているという印象がある。国と地方とが乖離できたら実現できるのか、悩む問題だと思います。

委員： 地方の自主性を尊重するという方向では決まっていると思います。ただ、地方の自主・自立というのは目的ではなく手段です。最終的には、県外の人から一目置かれて、県民自身も誇りに思えて生きていけるというところを目指すのでしょうか、それを具体的に何にするかということになると、人間の本質的な部分に戻るのだと思います。

委員： 雑誌で知事の評価が掲載されていましたが福井県は34位でした。しかし、今日の会議の資料を全部送れば状況が変わるのではないかと考えています。行政のPRも考えていけないと思います。今は病院や企業などいろいろな評価がでていますが、県政や行政に対する評価も出てくると思います。評価の尺度を早く捉えて、それに対するアピールも必要だと思います。でないと、せっかくやっているのに低く評価されるとモラルに関わってきますから。

委員： 経済の活性化と雇用というのは必ずしも結びつかないようになってきていますから、具体的な数値として15,000人の雇用という数値目標があるのはいいと思います。

委員： 女性会議が開催された中で提言されたものへの対応状況はどうなっているのでしょうか。

西川知事： 女性会議での提言への対応状況については後日報告会を開く事になっています。

事務局： 戦略会議の提言内容と重なっているものについては既に予算化されていますが、それ以外のものについては、今後対応状況を報告させていただきます。

委員： 農業者に対する助成を行う事業がありますが、助成金の交付を市町村が行う場合に、各市町村によって交付の条件が異なる場合があります。同じJA内でもある市町村では助成金が交付されるが他の市町村では交付されないということのないように、県と市町村が連携

して進めてほしいと思います。

また、女性グループの農産物直売などの活動に助成金をだすのはいいのですが、青年農業者のグループの育成も重要ですので、助成金が極端に減ることのないよう配慮してほしいと思います。

事務局： 各市町村によって助成金の交付基準が異なるということについては、産地ごとに市町村独自で交付金単価を決定している関係で、交付基準についても若干異なる部分があります。また、麦・大豆の品質向上に対する助成金については国の基準7haに満たなくても4ha以上であれば県内一定の基準で交付します。

委員： なぜ福井県が健康・長寿日本一なのかということ进行调查する予算がつかいましたが、生活満足度の指標では福井県が5年連続日本一で、癒しという項目では6年連続で日本一でした。健康・長寿の原因を調査していく中で全国の調査を行い、順次結果を公表していくと、それだけで福井のイメージアップになると思います。

前田議長： では、最後に、平成15年度経済社会活性化戦略会議を終了するにあたり、私から一言お礼を申し上げます。昨年12月に提言をとりまとめ、県においては、スピードある対応をいただきました。経済状況も明るさが見えてきましたが、経済は生き物です。県の職員も積極的に県庁から外に出て、県はこんなことをやっていると説明していくことが必要だと思います。15年度の経済社会活性化戦略会議を無事終了することができ、ご協力いただいた委員の皆様には感謝を申し上げます。ありがとうございました。

【閉会】